

歴史的假名遣で読みたい・書きたい皆の爲のファンブック！

はなごよみ 2018

HISTORICAL KANA ORTHOGRAPHY FOR ANYONE

内容見本

はなごよみ

目次

特輯「ようこそ正字正かなへ」	3
仮名遣への手引き	3
正字正かな布教心得	8
正かなの救ひ	31
正字君での變換結果を基にIPA・明朝フォントで原稿を作成した際に悩んだ字形について	33
國語問題協議會の講演會に行きませう	38
小生考	41
特輯「げもの・とり」	47
追悼グレイプ君	47
イハトビペンギン	50
狼娘の櫻歌ミコ	55
書評欄	60
うたかたの夢	65
歩みの念 第二章	66
原稿を書いてみませんか	76

表紙 コシヌケ1040、敷居高子

仮名遣への手引き

名賀月晃嗣

はじめに

すつかり「現代仮名遣」が蔓延してしまつて久しい現状に於いて、歴史的仮名遣を身に着け実践するには多少の面倒が伴ふ。とはいへ、「現代仮名遣」なる贗物が出来するまでは、誰もが歴史的仮名遣で読み書きをしてゐたわけで、決して難解なものではない。本稿では、歴史的仮名遣を身に着けるためにはどういふことをしたら良いか、如何なる点に注意を払へば良いか、筆者なりの考へを述べたいと思ふ。

まづは読むことか。

文章を書かうと思へば、まづは読めなくてはならない。仮名遣でも同じことで、読むことに苦勞するやうでは、書くこともなかなか困難であらう。

さうは思ふのだが、では、どういふものを読めば良いのか、それらしいことが言へない己に気付いた。何しろ蔵書に歴史的仮名遣で書かれたものが殆どない。身に覚えがないのに、必ず読んで慣れる段階が必要である、とは口が裂けても言へない。歴史的仮名遣で書かれたものを読むことに抵抗があるやうなら、まづは読み慣れた方が宜しいのでは、と言ふに留めておかう。

正字正かな布教心得

押井徳馬

ア

ニメファンや音楽ファン等が自分の好きな作品を他人に勧める事を、(宗教のそれになぞらへて)俗に

「布教活動」と言ひます。正漢字や正かなづかひの「信條」

を宣傳する事も、この意味での「布教」かもしれませぬ。

しかし、「布教のテクニク」については、元々の意味での

「布教」の方が大先輩で、さすがにかなひませぬ。ですから、

この記事はそろそろお終ひにして、新約聖書を讀んでキリ

ストの偉大なる布教技術から學び、私達の方の「布教」に

も取入れてみませう。をはり。……ではさすがに藝がない

ので、本物の「布教」を少し参考にしながら私達の方にも

良い部分を取入れてみたいと思ひます。

最初にお断りしますが、ここに書いた内容は、飽くまで

も私の個人的見解に過ぎませぬ。「指示」や「命令」ではな

く「こんな方法もあるのでご参考に」と云ふ「提案」です。

■ どうして他人に説明するのか

自分の書く文章を現代仮名遣いだけで通してゐる人は、

「どうして現代仮名遣いで書いてゐるの？」と聞かれる事

はまづありません。しかし、私達が正かなづかひつまり歴

史的假名遣で現代の言葉を書くのと、「どうしてそんな書き

方をするの？」としばしば尋ねられます。時には誠實な質

問だけでなく、「古臭い書き方に固執している」「知識のひ

けらかし」「相手に讀ませる氣がない」と馬鹿にしたり、

「例外なく頭がアレだ」と除け者にする人すらゐます。正

漢字や正かなづかひを使ひ始めたものの、それに心が折れ

てか、残念ながら止めてしまふ人を私も時々見てきました。

が與へられてゐる」「書きたいと思ふなら誰でも書いていい、みんなの爲のかなづかひだ」と云ふ意味で、「みんなが歴史的假名遣に宗旨替へしなればならない」と云ふ意味ではありません。

まづは「正字正かなは使はないが理解者である人を増やす」「正字正かなを使ふと云ふ『信條』には同意出來なくていいので、『正字正かなで書きたいと云ふ信念を持つ人』の存在だけでも知つてもらふ」事を目標としませう。その中から實際に正字正かなで書くやうになる人も出て來るかもしれませんが、「あまり期待出來ないけど、そんな人がゐればいいな」程度でゐませう。理解者が増えるだけでも、多くの人が正しく知るやうになつて、説明の時間が軽減出來る、これは大きな事です。

もし「實際に正字正かなで書くやうになる人」が出て來るとしても、私はその人を「押井徳馬の弟子でも野寄健秀の弟子でもない、藤原定家や契沖（三）の弟子なのだ」と思ふやうにしてゐます。「自分をボスにした仲良しグループを作る」事が目標ではないからです。

■人に説明する

正字正かなで書いてゐると、「どうして昔の書き方をしているの」と屢々しばしば質問されるものです。結論から先に言ふ

と、答へ方は一種類ではありません。相手に應じて答へ方を變へてみると良いでせう。興味や關心のある分野は人それぞれ異なるものです。

・戦前教育世代（國語改革をリアルタイムで知つてゐて苦勞もしてゐる世代）には「昔ながらの書き方の方がより優れてゐる部分もあると私は思ふので、現代の國語として實踐したいんです」

・戦後教育世代（國語改革について知らない人も多い世代）には「舊漢字や歴史的假名遣で、より豊かな國語表現の可能性を探りたいんです」（新字新かなの非難を最初に持つてくると自尊心を傷附ける場合もあるので注意）

・傳統文化を残す事に關心のある人には「私達の御先祖様が一生懸命研究して大事に育て上げてきたこの文化を、實踐しながら學び、後の世代に繼承したいんです」

・コンピュータに關心のある人には「今は舊字舊かなで文章を書いて印刷するソフトがきちんと揃つてゐるし、私なんてそれを見たらむずむずして實際に使ひたくなるものですよ」

・地學に關心のある人には「今は古文書を鰯刻する事で、昔どこでどう地震や津波が起きたか知つて將來に役立てる事が出來るさうですが、傳統的な國語表記を知つてお

く事は意外な分野で役に立つものです」

・懐古趣味に興味のある人には「私も戦前文化が好きなので、リスペクトしてこんな表記で書いてゐるんですよ」

・不公正を憎む人には「新字新かなしか知らないのに舊字舊かなは駄目だと極附けるのは嫌なので、両方を實際に使つて判断しようと思つたんです」

・人権に関心のある人には『表現の自由』が大事であると云ふアピールをこんな方法で実践してゐるんです」「政府が決めた國語表記もいいんですが、今は人民が長年掛けて育ててきたもう一つの國語表記の方で書きたいんです」

・コミュニケーションを重視する人には「見てすぐわかる表現も大切なのですが、一見わかりづらいが人によく考へさせる表現もあると思ふのです」「現代のご近所さんとのコミュニケーションの道具としての言葉ももちろん大事なのですが、過去や未來との、そして漢字を使ふ他の國とのコミュニケーションも私には大切なんです。それに、思考の道具、表現の道具、記録保存の道具としての言葉も大事にしたいんです」

・鐵道に興味のある人には「SLを公園で野晒しにするだけで勿體ないと、莫大な金を掛けて動態保存（動く状態でメンテナンス）してゐる人がゐますが、私も昔から

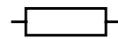
の書き方を『専門家が研究するだけの死んだ言葉』ではなく『現代の生きた言葉として動態保存』したいんです」

・電氣回路に興味のある人には「回路圖の抵抗器を新JISの長方形ではなく、舊JISのギザギザで描く人は今でも多いものですが、私も國語表記の分野ではなるべく舊規格の方で書きたいと思ふんです」

注意を一言。「舊字舊かな」や「古文」についてよく知つてゐる人だからといつて、必ずしも「舊字舊かなを現代の文書にも喜んで使ふ」とは限りません。「私は舊字舊かなを尊重する」と主張するものの、その「尊重する」

舊字舊かなとは「國語改革以前のもの限定」であり、「それで現代の言葉を書くのを嫌がる人」も少なからずゐます。「飽くまでも國語改革以前の文獻のための表記であり、現代の言葉をそれで書くのは相應しくない」と云ふ「信條」なのです。「舊字舊かなに詳しい」からといつて、即ち、正字正かなを現代の文書に使ふ事に好意的な「仲間」だと見做すのは、早とちりですので氣を附けませう。

正字正かなについては、内輪向けの難しい言葉で一方的



抵抗器の舊JIS記號（左）と新JIS記號（右）

に言つても相手に届きません。論理的な説明が良い相手も
ゐれば、共感を呼ぶ説明が良い相手もゐます。「この説明
は、『祖父も戦後の新字新かな世代なので正字正かなが
他人事のやうな世代』の心に届くだらうか。小中學生が聞
いて理解出来るだらうか。主婦層が聞いてわかる言葉だら
うか」と自問自答してみませう。

言葉に加へて、イラストや圖を多用してみるのも良い方
法です。時間のある時に作つておくと、いざと云ふ時に役
に立ちます。

假名遣の詳しい規範を載せた参考資料がないかと聞かれ
る事もあります。正漢字に或程度慣れてゐるなら、福田恆
存著「私の國語教室」が定番ですが、他の書籍やウェブサ
イトもいろいろあるので、豫め探して備へておきませう。

新しい概念を傳へるので、あまり知識を詰め込み
過ぎず、程々に。少々物足りない程度、「續きは別の機會
に」くらゐが丁度よいでせう。

■新字新かな表記自体は「言行不一致」ではない

正字正かなを使ふ人の中には、「自分は正字正かなで書
きたいが、それに慣れてゐない人の便宜を圖つて、新字新
かなで書きたい事もある。それは『言行不一致』だとみな
されないだらうか」と心配する人もゐるかもしれませぬ。

しかし、自身も正字正かな表記を通してきた福田恆存先生
は、かつてこのやうに書いた事があります。

附記 蛇足かもしれませんが、桑原さんの揚げ足とり
にお答へします。私がこのまへの「知性」の論文の附記
に「新聞、雑誌に原文のままのかなづかひ表記を、かな
らずしも期待しない」と書いたのにたいし、「歴史のかな
づかひ」を支持するものとして、言行不一致だといつて
をります。どうしてでせうか。「かならずしも期待しな
い」といふのは、期待まではしないが、相手がいやだと
いへば、諦めるといふのです。

また、うまくいひかへすとレトリックだとやられさう
ですが、桑原さん、自分の氣に入らぬことが世間で通用
してゐるばあひ、それに一々「レジスタンス」をします
か。いや、現場で一々さうしますか。「現代かなづかい」
は法律的強制力はもちませんが、學校教育で採用してゐ
るものです。それを楯にいひはられれば、こちらはいち
わう引つこみます。私にとつて不都合な交通規則でも、
それが決れば、私はいちわう守るやうにします。おまは
りさんとけんくわしてもはじまらない。どうしても辛け
れば、まづその規則を決めた當事者にかへあひます。民
主主義下におけるレジスタンスといふのは、その程度の

ことではありませんか。

それとも二・二六の兵士のやうに印刷工場へとびこんで、活字の棚をひつくりかへせとおつしやるのですか。

もちろん、文末に「かなづかひ原文のまま」と書いてもらふ手もありますが、私の現在の立場からいつて、それは常識的ではないとおもふのです。だから、それをやらずに、かうして直接、當事者諸氏にかけあつてゐるのです。

〔福田恆存「再び「國語改良論」に猛省をうながす。〕

「知性」昭和三十一年二月號、福田恆存全集 第3卷、文藝春秋)

いいつらの皮をひんむく

フシクレビ (四八・二二五)「自転車通稱」

の故だ。「いいつらの皮をひんむく」と言つては、強にかける表現である。「いいつら」を「誰」として取つてゐるわけだが、「いいつら」とはどんな顔のか、いわゆる美男、美女のことではあるま。

推察するに、「善長 そうな顔をしてゐるが、その皮をひんむいて正体をあはしてやる」ということらしいが、それとすると、この表現は適切ではなく、「化の皮をはく」とも言つた方がよくはないか。恥をかかせる意なら「面の皮をはく」だが、恐らく「面の皮をはく」「ひんむく」と、「いひ面の皮」とんだん皮をむく」とを不用意に結びつけたのでないか。それにして、この種の間違ひがたがらビ・ドラマなどに多いのは、作者が悪いのか後

者が悪いのか、それはわからぬが困つたことである。(以下)

一日中喋るのしつばなし

日時はずれたが、あるテレビのホームドラマで「あの二人が結婚したや、きつと一日中喋るのしつばなし」と言つていたが、一日中喋るのしつばなしはおかし。「……ばなし」というのは、始末をつけずそのまゝ放つておくことであらう、すなわち「ばなし」を言へば、お返しもせず一方的にもらつてしまふしであるということになる。

だから「喋るのしつばなし」といふこともあるわけだ。喧嘩したまゝ仲直りもしていない、という意味になる。また、上に「結婚したら」とか「一日中」とあるためにおかしいのであつたらしく、「一日中喋るのしつばなし」と言ひたかつた

「崩れゆく日本語」(國語問題協議会監修、福田恆存・宇野精一・土屋道雄編、英潮社)

實際、國語問題協議會監修の本、國語問題協議會會員の執筆した本でも新字新かなで書かれたものが一部ありますが、このやうな考へからなのかもしれませぬ。

また、丸谷才一は歴史的假名遣で書いたものの、漢字は新漢字で印刷されてゐます。「新しい概念に基き創作された現代かなづかいと異なり、略式の字としてであれば昔から中國や日本で使はれてきた漢字が大半を占める新漢字であればまだ妥協出来る」と云ふのも一つの考へです。

現實問題としては新漢字や現代假名遣を使つた方が良い場合もあるでせう。しかし、それは飽くまでも「讓歩」であり、「理想を棄てた」のでも「言行不一致」でもありません。「理想を忘れることなく、無理なく可能な範圍で正漢字や正假名遣を使ふ」。それでいいのです。

■安心してもらふ

「正字正かなで書いてゐると、反對意見に遭遇したり、時にはきつい言葉で非難される事もある」事は日常茶飯事です。あらかじめ想定しておき、心の準備と、どう對應するかの備へをしておきませう。

とは云へ、「そのすべての動機が悪意によるもの」と極附けない事です。「良かれと思つて助言する人」「心配してゐる人」「事情を知らずに軽い氣持ちで暴言を吐く(が、後に

事情を知るとそれを後悔するかもしれない)人」もゐます。そんな人の中には、こちらの事情がわかると少し理解してくれる事もあります。そんな人にも感情まかせに暴言を吐くなら、「理解者豫備軍」をみすみす失ふ事になるでせう。

世間には正字正かなに關する誤解が廣まつてゐる以上、まづは安心してもらふのが先決、詳しい説明はその次にした方がよい事も多いかもしれません(以下の例は全部を一度に話すと云ふ意味ではありません)。

・政府に訴へて新字新かなを無理矢理使へなくする運動ではない

・問題は新字新かなを決めた経緯や方針や決めた人であり、新字新かなを使ふ人の事を非難してゐるのではない(そもそも私達も學校や會社では新字新かなを使ふ)

・責任者が「新字新かなで書く事」と明言してゐる場所です無理矢理使ひたいと云ふ話ではなく、その制約がない場所では場合に應じて「正漢字」や「歴史的假名遣(正かな)」による表現活動をしたいし、やめさせる権限のない人が割り込んで邪魔をするのは問題ではないか、そんな當り前の主張をしてゐるだけ

・「博學をひけらかして周囲の人を見下げる」のでも、正字正かなの教養を専門家だけが獨り占めするのでもなく、

「現代のみんなの生きた文化」として守り、それに觸れる機會や、讀んだり書いたり出来る人をもつと増やしたい

・正字正かなの「正」は「誤」の逆ではなく、「略式」に對する「正式」に近い

・その「正」は私達が勝手に決めたのではなく、昔の中國人や日本人が決めたもので、現代の國語辭典や漢和字典にも載つてゐる立派な「もう一つの國語表記の標準」

・そもそも正字正かなの背後にある考へは「完璧主義」ではなく「許容範囲のある正しさ」

・古代語の發音を覺えると云ふ意味ではなく、發音は同じで表記が變るだけ

・正かなで書くとき古代語の發音しか書き表せなくなると云ふ意味ではなく、あへて現代語の發音そのものが何であるかを表はす場合は表音式の書き方を併用しても良い

・新字新かなが普及してゐる現實は認めるし、それで書く現實的な對應をする事はあるが、だからといつて理想を諦めない

・特定の政治思想が背後にあるのではなく、様々な思想的立場を持つた人々が正字正かなを實踐してゐる(たとへば福田恆存と丸谷才一とは全く逆の思想的立場)

特に「新字新かなを使ふ人自體を非難してゐるのではな

手が誠實な對話相手である場合は特にさう言へます。ここでの「誠實」とは、「正字正かなの考へを受容れる」と云ふ意味ではなく、「受容れないとしても、事情を一旦理解したなら、相手の『信條』を尊重しながら建設的な話が出来ると云ふ意味です。

「正字正かなで書くのを快く思はない」事を公言する人であつても、それに深い理由のない事が多いものですが、「どのやうな経緯があつて私達が正字正かなを使ふに至つたのか、事情をよく知らない」場合も多く、「その事情がわかれば、正字正かなで書くと云ふ『信條』に同意はしないまでも、理由だけは理解してくれる」可能性はあります。

まづは相手の意見を分析しませう。正字正かなを生活に密著したものとしてよく知る世代と知らない世代がゐりますし、育つてきた環境からしてそれぞれ違ふものです。相手の背景により、當然ながら對應は異なりますが、相手の主張を聞いて知る事が必要です。たとひ自分とは反對の意見であつても、どんな知識とどんな考へからそのやうな意見が生れたのか研究するなら、どんなアプローチをすれば最適なのかの参考にきつとなるはずで。

誤解を一氣に解決して「パラダイムシフト」する魔法の方法はありません。私達は自分の意見でさへ變へるのは難しいのですから、他人の意見はなほの事簡単に變へる事な

ど出来ないものです。私達が出来るのは、物事の新しい視点からの見方がある事を「紹介」し、その視点から見られるやう「助ける」事だけです。考へを實際に變へるのは本人にしか出来ません。イエス・キリストや釋迦ほどの偉人でさへ、總ての人を納得させる事など無理で、理解しなかつたり反對する人さへゐりましたから、私達は尙更の事です。それでも、適切に行動を起こせば、理解する人も増えるかもしれません。

また、意見の異なる相手であつても、「共通点を探す」事は出来ます。文字通りの布教でも、キリスト教の宣教師が、熱心な佛教徒にまさか「毎日佛様に御供へ物をして佛像を拜んでゐるのは良い事ですね」とは、立場上言へないでせうが、「信仰心の失はれつつあるこの時代、熱心な信仰心を抱いていらつしやるんですね」と譽める事は出来るでせう（新約聖書中でも、宣教師の大先輩である使徒パウロが、偶像を崇拜する異教徒に對し似たやうな事を言つた事が書かれてゐます）。

正字正かなの「布教」にも同じ事が言へます。「漢字をなるべくかなに開いた方がいい」「現代文には現代仮名遣いが最適」等には同意出来ないとしても、「より良い國語にしたい」「相手に傳はる、わかりやすい文章を書きたい」と云ふ部分には同意して褒める事が出来るかもしれません。

「その部分は私も同じ考へなのですが、私はいかにも思つてゐるので、違ふ方法で實現させたいと思つてゐるんです」と説明出来るでせう。

もちろん、私達は「相手への押付け」や「命令」をするわけではありませんし、最初の最初から「相手の『信條』は間違つてゐる」と頭ごなしに否定するのは、相手に失禮な事です。たとひ自分にとつて相手の「信條」が「誤つた事」のやうに思へる部分があつたとしても、十分な説明をして下準備した上でないと、誤解を産むだけですし、相手も心の準備が全く出来てゐないでせう。「話すべき適切な時」を見極めるやうにしませう。

ただ、「自分の意見と相手の意見が異なる」事をいきなり説明するのも、言ひ方の工夫次第で出来なくはありません。「なるほど、あなたはそのやうに考へてらつしやるのですね。でも私としては、これこれの理由から、このやうに考へてゐます。そこが意見の違ふ部分ですね」と言ふなら、いきなり「間違ひだ」と言ふよりも角が立ちにくいでせう。繰返しますが、「相手のプライドを傷附けない配慮」は忘れがちですが本當に大切です。ともすると私達は急進的過ぎた國語改革への怒りから「常用漢字表も現代仮名遣いも出来損なひのボンコツを押附けて嫌になる」と言ひたくなるところですが、國語改革の経緯と云ふ前提知識を知らな

い人がいきなりそんな言葉を聞いたたら、「學校で習つてゐないし獨學もしてゐないから舊字舊かなで書けない私を馬鹿にしてゐるのか」と思ふでせう。もちろんそんな意圖で言つてゐるのではありませんが、この話題は適切な時を見計らひながら段階を追つて説明した方が良いでしょうし、「新字新かなで書く事そのものを非難してゐる」と誤解されないやうに十分な配慮が必要でせう。

また、「相手の立場や知識の範圍を想像する」事です。知らないから誤解したり悪く言ふ事も多いものです。特に「言葉の定義をはつきりさせる」事は重要です。現代の國語教育では、「現代文・口語文・現代仮名遣い」「古文・文語文・歴史的假名遣」がセットで教へられてゐるので、歴史的假名遣の事を「文語體」とか「古文」と呼んだり、「口語體の現代文を歴史的假名遣で書くのはをかしい」と言ふ人もゐます。もし相手が誤解してゐるやうであれば、「假名遣」と「文體」「字體」は別のものである事を説明出来るでせう。「相手が間違つてゐるのが悪い」ではなく「一般の本でも一緒にしてゐる事があるけど」と等と、相手が氣まづい思ひをしにくいやうに表現を和らげるのもテクニクです。また、あらかじめ説明用の簡単な資料を用意しておくとも良いかもしれません。

「質問返し(質問に質問で返す事)は良くない」と云ふの

■ 聲を上げるのは當然の権利

「黙るのが最善の時」もあれば、「聲を上げて、悪いものは悪いとはつきり指摘するのが最善の時」もあります。

「些細な問題だから放置しろ」「嫌がらせは無視すればそのうち飽きるし、相手にすると面白がつてエスカレートする」は必ずしも正しくありません。逆に、毅然と対処しないとエスカレートする事も多いものです。それに、「放置して消えるデマ」はありません。不本意でも、誰かが割に合はない多大なコストを拂つて懸命に「火消し」して、やつと「下火」になるものです。

繰返しになりますが、責任者が「新字新かなで書く事」と明言してゐる場所でも正字正かなを無理矢理使ひたいと云ふ話ではなく、その制約がない場所で使ひたいと言つてゐるだけです。たかが正字正かなで書くくらゐの事で除け者にしようと思ふのはいかなものか、やめさせる権限のない人が割り込んで邪魔をするのは問題ではないか、そんな當り前の主張をしてゐるだけです。

「服装は自由です」と言はれた場所に和服を着てきたら、會場の正式スタッフではない人に「ここは和服で来る所ではない」と非難されたり、外國人の民俗衣裳や高齢者の和服は非難しないのに自分だけ「ミスマッチだから」と非難

されたとしたら、怒るのが普通でせう。それと同じです。

私達は「正字正かなで書く」と馬鹿にされたり、迷惑がられたりする事があるので、どうしても使ひたい時以外は控へよう」と思ふのが當り前になりがちですが、このやうな「自由な文化活動の萎縮」は、本當は異常事態です。

もちろん、「自分達の非難は許さない」と云ふ意味ではありません。反対意見を表明したり非難する事はもとより自由です。こちらはただ「フェアプレイ」を求めてゐるだけですが。こちらの言ひ分を聞かうともせず、「いちいち言ひ返すから頭のをかしい人だと言はれるんだ」と頭ごなしに暴言を吐くのは、あまりにも一方的ではありませんか。

さて、正字正かなの問題に限らずあらゆる分野で似た例が見られますが、「穏便に済ませよ」と、あたかも正論のやうに見える事を云ひながら、實質的には氣附かずに加害者側に加擔してしまつてゐる人も少くありません。

- ・私は舊字舊かなは愛するが、舊字舊かな信者は駄目だ。舊字舊かな信者自身が舊字舊かなの評判を損ねてゐて、あなた方の界限から人が離れていく原因を作つてゐる。
- ・それが嫌なら、そんな人を排除する自浄作用を働かせろ。
- ・舊字舊かな信者はどうしていちいち言ひ返すの？ そんな

正字君での變換結果を基にIPAmj明朝フォントで原稿を作成した際に悩んだ字形についてにふ

以前、自分が参加する同人誌サークルにて自由記事を作成した際、文章を正字正假名で書き、組版も自分で行ったのですが、使用してみたフォントとの兼ね合ひで、字形に關して妥協せざるを得なかつた文字もありました。この記事ではそれらの文字を擧げつつ、當時直面し悩んだ點を話したいと思ひます。

記事作成に用ゐたもの

■ IPAmj 明朝フォント

異なるOS間でデータを遣り取りして共同で編輯作業をする際の便宜を圖り、そのサークルでは記事に使用するフ

ォントを、基本的にはIP A e xフォントに統一してをりました。それゆゑ、その統一フォントとの調和を考慮しながらも、字形の収録數が格段に多いIPAmj明朝フォントを、自分個人の記事には選びました。(どちらも文字情報基盤整備事業のサイトで配布されてゐます。)

■ 正字君 ver.0.3⁽¹⁾

記事中の正字に置換しうる文字の洗ひ出しには、押井氏の正字君を使ひました。第0.3版ではIVS⁽²⁾での出力に對應してゐる上に、變換結果の表示フォントとしてIPAmj明朝フォントが選擇できるため、初見ではIPAmj明朝フォントでの正字原稿作成が随分捗るかと思はれました。

しかしながら正字君のIVSはアドビ系の規格のものであり、IPAmj明朝フォントが対応する文字情報基盤系の規格（以下、略してMJとも）とは異なるため、出力結果を更に自前で変換してやる必要があります。

■文字コードB^(四)

OE Waku氏の電子書籍開聯のサイトにて、ユニコードやCID（アドビ系規格）の文字コードから別規格のIVS異體字を探す際に有用なツール「文字コードDB」が、ウェブブラウザで動作する形で利用できたので、正字君での出力をIPAmj明朝フォント向けに再変換するための変換表を自作する際に欠かせないものでした。（サイトのトップページから辿れないところを見るに、まだ正式に公開してあるわけではなささうですが…）

正字君で変換された文字の内IPAmj明朝フォントへの対応づけに難が有ったもの

■「達」

アドビ系のIVSでは「達」（U+9039）と「達」（U+9054）のいずれに字形指定用の符號E0101を後続させても「達」（CID+13912）の字形を指定する事ができませんが、文字情

達 U+9039		達 U+9054	
アドビ	MJ	アドビ	MJ
達 +E0100 (CID+6908)	達 +E0102 (MJ025999)	達 +E0100 (CID+2913)	達 +E0102 (MJ026060)
達 +E0101 (CID+13912)	達 +E0103 (MJ025998)	達 +E0101 (CID+13912)	達 +E0103 (MJ026061)
	達 +E0104 (MJ026000)		
	達 +E0106 (MJ026001)		

圖1 「達」と「達」のIVS異體字のアドビ系とMJ系の比較

報基盤系のIVSでは「達」（U+9054）の方にのみ字形指定用の符號E0103を後続させて「達」（MJ026061）の字形を指定できます。

文字コードDBにおいては、現状、CIDの13912番で探すと「達」（U+9039）の方だけがヒットするので、同じCID字形が複数のIVSに割り当てられてある可能性を念頭に使用せねばなりません。（恐らくはツール製作者の意圖に反する舉動でせう。）

この場合は結果的にCID字形と同等の字形を得られた

國語問題協議會の講演會に行きませう

押井徳馬

歴

史的假名遣で何かを書く人は、インターネット上の短文投稿サイト「ツイッター」だけに限定しても、私の把握してゐる範圍で百何十人もゐる。しかし、それは全體のほんの一部に過ぎない。インターネットの外まで含めると、實は結構な数になる。

「國語問題協議會」は、昭和三十四（一九五九）年から活動してゐる、歴史的假名遣を守る運動としては吾々の先輩のグループ。年二回、講演會や懇親會を開催したり、機關誌「國語國字」を發行してゐる。

講演會と懇親會の場所は有樂町の帝國劇場と同じ建物にある「日本俱樂部」。普段は會員制の紳士の社交場で、非會員が入れる貴重な機會だ。會場に着くと、「國語國字」最新號と講演のレジュメが手渡される。また、物販コーナーで

は「國語國字」バックナンバーや、講演者の著書、會員の主宰するイベント等のチラシや出版物（本誌を含め、國語問題協議會とは關係なく私のサークルとして發行した正假名同人誌も一緒に置かせていただいてゐる）が並んでゐる。來場者は若い人もちらほらゐるものの、大半が高齢者である。コンピュータやインターネットを利用してゐない人も少くないやうで、「今でも若い世代の人々がネットで正字正假名で書いてゐる」と言ふと驚かれる。

講演は國語をテーマにしたもので、多くの場合、外部の大學教授等を招いて行はれる。その爲、普段から正字正假名を使つてゐたり、それを擁護する立場からの講演であるとは限らない。そのやうな内容を求める人には物足りない事もあるかも知れないが、正字正假名にはそれほど關心な



國語問題協議会の講演會会場

くても國語全般に興味ある人にはむしろ良いだらう。

正字正假名に興味ある人には、その後の懇親會に出てみるのも良いかもしれない。立食パーティー形式で講演者や参加者と歓談したり、會員からの近況報告を聞いたり。特に、どんな背景の人が正字正假名に関心を持つたり、實際にそれで書くやうになつたりするやうになつたのかがわかると興味深い。

懇親會の後は、會場を出て別の場所で二次會が開かれるので、お金と時間が許すなら参加すると良いだらう。正字正假名の更に深い話題できつと話が弾む事間違ひなしだ。

質問箱

■ **非會員でも講演會や懇親會や二次會に参加出来ますか。**
もちろん可能です。それぞれ参加費が掛かりますのであらかじめご確認ください。当日突然氣が變つてアポ無しで講演會に行つても追ひ出される事は多分ないと思ひますが、出来るだけ事前に参加希望のメールを出すのが良いでせう。

■ **國語問題協議會は保守・右派系の政治運動と關わりがありますか。**

個々の會員に保守・右派系の政治運動を行ふ人が一部

る(たとへば東京大學教授で日本會議の副會長でもある小堀桂一郎が國語問題協議會の副會長)のは事實ですが、私の觀察する限り、國語問題協議會といふグループとしては「超黨派的」(黨派の垣根なく)に活動してゐるやうです。

講演會參加者は右派ばかりかと思ひきや、「私個人は佛敎は好きだが神道はあまり好きではない、廢佛毀釋をやつたり」なんて人もゐたり、「神武天皇が二六〇〇年位前に存在した事實はない」と口を滑らせた講演者に抗議もせず、質疑應答の時間にもその話題に突つ込みを入れず、穩やかに聞いてゐたりするのには驚きました。「舊字舊かな」右翼」のほずではなかつたのでせうか(反語表現)。

「政治思想的には意見が異なるとしても、正字正假名の復興を理想と考へる點では思ひを同じくする人々の集まり」と言へるかもしれません。

■ ネットで正字正假名を使ふ人々との雰圍氣の違いは。

國語改革や福田恆存先生などの事をリアルタイムで知つてゐる人が多い事です。そんな人生の先輩達から學ぶ機會は今のうちです。

また、人生の先輩で教養もより豊かなので、國語分野の守備範圍も廣めです。字音假名遣を國語假名遣と同じくする重視する人も若干多めの様子(正字正假名人力ソフト

「契沖」の市川浩氏はまさにその代表格かもしれない)ですし、文語文に精通してゐてコンクールを主宰してゐる人もゐます。これらの分野にも興味ある方は國語問題協議會の方がお仲間を見附け易いと思ひます。

■ 「みんなのかなづかひ」は國語問題協議會と關係ありますか。

私個人が會員なのは事實ですが、本誌「みんなのかなづかひ」は會とは關係なく個人的に發行してゐるものです。

■ 次回の講演會はいつ開催されますか。

國語問題協議會のウェブサイトをご覧下さい。

<http://kokugomonndaikyō.sakura.ne.jp/>

■ 私は正字正假名を書くのが苦手ですが、會への問い合わせに新字新假名で書いて怒られませんか。

その心配は無用です。戦後教育世代が大抵正字正假名に慣れてゐない事はみんな承知済です。正字正假名に慣れてゐなくて新字新假名でレジュメを書く講演者もゐるほどですし、興味を持つて問合せしてきた新しい人となると暖かく歓迎してくれるでせう。

「小生」考

押井徳馬

食べログの「小生さん」位いいだろ！

私はこれまで自分の事を「小生」と呼ぶ事はほとんどありませんでしたが、ネットで「食べログで自分を『小生』と書いてる奴はキモい」と馬鹿にする人が最近多いので、そんな風潮への抗議を込めて、私も時には「小生」と書く様になりました。

そんなわけで興味を持った、絶滅危惧種の第一人称「小生」ですが、調べてみると、『小生』は目上に使用しない」説が存在する事も最近になって知りました。これは最近の本の一例です。

また、比較的若い方が「小生」という言葉を使っているのも見かけますが、小生は目上の人が目下の人に対してへりくだって言う言葉です。

こうした意味を理解せずに、若い人がむやみやたらに使用すると、「なんて生意気なんだ」と、思わぬ悪印象を与えてしまう恐れがあります。

（安田 正『何でもわかりやすくする技術、伝える技術』クロスメディア・パブリッシング（インプレス）、二〇二二年）

私は子供の頃から、昔の本から今の本に至るまで色々な本を読み漁る本の虫でしたが、『小生』は目上に使用しない」説などこれまで見た事も聞いた事ありませんでした。

それに、肝腎な「どうして」目上に使用しないのかについて説明がありません。

『これはきつと、『苦勞様』や『了解』を目上の人に使うてはいけない』と同じく、根拠が怪しいか賛否両論ある説ではないか、きちんと裏をとらないと』。

調査方法

昔は図書館で一冊一冊本のページに目を通して調べる必要がありました。今ではもっと便利な方法があります。

Googleブックス (<https://books.google.co.jp>) です。キーワードを入力すると、そのキーワードの含まれる本の一覧が表示されますし、本によってはGoogleが電子化したページを読む事が出来る場合もあります。

国立国会図書館デジタルコレクション (<http://dl.ndl.go.jp>) も便利です。戦前の文献を中心に、電子化したペー

ジを自宅から読む事が出来るのは本当に便利です。(蛇足ながら、明治後期〜昭和初期は手紙文が候文と口語文の両方で書かれた時代で、当時発行された、手紙文の書き方の本を読むと、それぞれの書き方がわかって興味深いです。本によっては同じ内容が候文と口語文の両方で書かれてるので、候文の書き方を学ぶのに役立ちます。)

Googleブックスにあるが電子化したページが表示されない本については、国立国会図書館サーチ (<http://iss.ndl.go.jp>) を活用すると、国会図書館にあるかどうか確認出来ます。今回は実際に国会図書館に行つて調べてみました。

手始めに国語辞典から

最初に、地元の図書館で色々な国語辞典を調べてみました(後に手持ちの国語辞典や国会図書館にある国語辞典等も調査したのでそれも追加。版がわかるものは記載)。

- ・ 『小生』は目上に使用しない」説を支持する辞書↓新明解国語辞典(一九七二年初版、三省堂)、言泉(一九八六年第一版、小学館発行)、明鏡国語辞典(二〇一〇年第二版)、旺文社国語辞典(二〇一三年第十一版)、集英社国語辞典(二〇一三年第三版)、新選国語辞典、ベネッセ新修国語辞典

- ・ 同説についてノーマコメントの辞書↓三省堂国語辞典、岩波国語辞典(一九六三年第一版)、福武国語辞典、大辞林、講談社日本語大辞典、大辞泉、広辞苑(一九九一年第四版)、大言海、辞苑(一九三五年六〇版)、言泉(一九二七年)、日本国語大辞典(一九七二年第一版)、大辞典(一九三五年年初版)、角川国語大辞典蔵書版(一九八三年初

追悼グレープ君

押井徳馬



グレープ君。2017年6月4日撮影。

お

腹に胡麻鹽を振掛けたやうな模様のファンボルトペンギン。世界的には絶滅が危惧されてゐるが、こゝ日本では暮らし易い環境なのか、逆に増え過ぎて困るほどらしく、日本の動物園では極くありふれた動物になつてゐる。

擬人化された動物達の登場するアニメ「けものフレンズ」の大ヒットを受けて、あちこちの動物園でコラボイベントが開かれたのだが、私としてはそれほど積極的に行く気はなかつた。そんな私が重い腰を上げて東武動物公園に行かうと思ふやうになつた切っ掛けは、イベントが始まつて暫くした後聞いた話である。一羽のファンボルトペンギンが、作品に登場するファンボルトペンギンのキャラクター「フル」の描かれたパネルの前からなかなか離れないと云ふ。そのペンギンの名前は「グレープ」君。「以前一緒だつた

イハトビペンギン

明日楨悠

「つからそいつがそこにゐたものか、私はよく覚えてゐないのだ。この部屋の外、私の家には、一匹のイハトビペンギンが生息してゐる。はじめ、私はそいつを意識しなかった。そいつはまるで透明みたいにふるまつてゐたのだが、いつも目にしてゐる壁の色に改めて気がつくやうに、だんだんと存在感を浮かばせてきて、リビングでぴよぴよと動いてゐる姿を再発見するに至つて初めて、この家にはペンギンがゐるんだ、と軽い衝撃を覺えた。

イハトビペンギンは、眞つ赤な眼の上に長い眉毛のやうな黄色い飾り羽が特徴的な、見るからにかつい顔をしたペンギンである。眉にみえるところの吊り上がつた感じからして、常に怒つてゐるやうに見えるので、なんだか近寄りが見たい。

よりによつて私の家にゐてほしくないと思つたが、ゐたものはしやうがないし、今までも無意識のうちに共生してゐたわけであるから、どうともせず放つておくことにした。幸ひ、そのイハトビペンギンはちやんと自活をするやうで、こちらが世話をしなくてもじぶんで冷蔵庫から魚を出してきて食事したり、外に出て運動したり、トイレで用を済ませたりするので、イハトビペンギンのことはイハトビペンギンのこととして、當らず障らずの態度で過ごしていけばいゝと踏んだわけだ。

ところが、それがイハトビペンギンの氣に召さなかつたらしい。といふのも、イハトビペンギンが存在感をあらはしてきたのには、どうも、私がそいつのことをあまりにも意識しなすぎることへの不満に理由があつたらしいのだ。

狼娘の櫻歌ニコ

くうぼ
空拇

櫻

歌ニコとは、一言で表すなら「歌声合成キャラクターの一人」です。具体的には、飴屋／菖蒲さん作の「UTAU」などのソフトウェアを使ふと、櫻歌ニコとして配

布されてゐる音声素材から歌声を合成して、指定した通りにニコを歌はせることができます。ニコには音声だけでなく、容姿や年齢などの設定が用意されてゐて、それらが合さつて「櫻歌ニコ」といふキャラクターが形成されてゐます。歌声合成としてはVOCALOIDが有名ですが、そのキャラクターとして「初音ミク」などが存在するのと同様です。

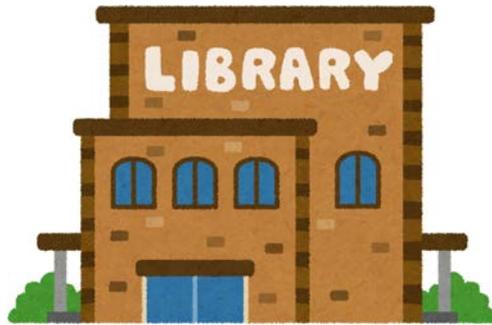
ここで今回重要なのは、ニコの種族が狼だといふことです。つまり「けもの」であり、本誌のテーマに合致します。私はニコに色々な曲を歌ってもらつた動画を、ニコの誕生日（音源公開日、十二月二十四日）に毎年投稿してきました

らゐにはニコのことが好きなので、これを機に、如何にニコが魅力的かを好き勝手に書き連ねます。

音源として

UTAUでは色々な音声素材を音源として歌はせることができますが、その中でもニコが音源として魅力的なのは、第一に声の可愛らしさでせう。後に紹介するキャラクターの外見とびつたりな、元気一杯で力強いのを基本とする、幼さを感じさせつつも芯の通つた声です。VOCALOIDには子供女声音源として「歌愛ユキ」が居ますが、ユキが大人しくてどこか哀愁を感じさせるのとは対照的で、独特の存在感が有ります。

書



評



欄

楷行書筆順・字体字典

・江守賢治編

・三省堂

・二〇一六年一月二〇日発行

活

字体ではなく、手書きで旧漢字をどう書くかは悩むもの。この

字典は、そんな疑問を解決してくれる。

戦前・戦後の国語教科書の教科書体ではなく、書道的な楷書体の伝統を基準として、楷書・行書・草書での筆順を解説する。「木」の縦棒を撥ねる撥ねない等、教科書体と伝統的な楷書とで書き方の異なるものはその旨記載があるのが有難い。また、「特殊編」として旧漢字の筆順、「楷書の字体一覧」として「楷書として望ましい形や許容される形」「旧字体の活字に寄せた書き方と楷書の伝統的な書写体」の相違がわかる資料もある。(押井徳馬)

歩みの念

文・明日楨悠

二

午時の陽の下で、桜は一杯に咲き誇つてをりました。大きな桜の樹が枝をひろげた、なだらかな丘の上で、おのおの草を茵に、若彦はごろんと寝転がり、千禰は横坐りになつて休んでみました。御輿は二人の間に置かれてゐます。

周りでは、きれいなおべを着けた子供たちが楽しさうにかけまはつてをりました。樹の根方に腰を下ろして、遠くから子供たちのあそぶ様を見つめる御婦人がゐます。女中さんがひとり傍に侍つて、ぼうつと花の雪が舞ふのを眺めてをりました。小桜山は今が盛、げに爛漫の春でございます。

うらかな目を浴びながら、若彦はのんびりとひとりごちました。

「旨さうな雲だなあ。ああ、おながが減った」

大きな声ではありませんでした、これが耳に入ったのでせうか、桜の幹のある丘の天辺から、ふと御婦人がかう呼びかけて下さいました。

「もし、御二方。これからお花見の御馳走をいただくのだけど、よろしければ、あなたたちもご一緒にいかが」

「かたじけないなあ。ぢやあ、お言葉に甘えて」

あつさりとは若彦が立つて行かうとするのを、横から千禰が引き留めました。ちやつかりしてゐるところをたしなめるのかと思ひきや、千禰は、若彦が御輿を置きつばなしにしかけたことを見咎めたのでした。

「忘れてもらつちや困ります。私たちは御倉を元の所に戻

すために旅をしてるんですから」

御輿の担ぎ棒へそつと手を遣る千禰の言葉に、何も若彦は言ひ返せません。ただ「さうでした」とだけ応へて、大人しく輿の後に就くのでした。かうなつては若彦も形無しです。千禰は御輿の先棒を担いで、得々と花ざかりの丘をのぼつて行きました。

桜の樹の根元にたどり着くと、御婦人はころよく一行を迎へてくれました。

「あら、可愛らしい御輿ですこと。この先にも、これと似たやうなお堂がございましたよ」

さう言つて、御婦人はうしろを振り返り、まばらに木の生えた、桜の森が続いてゐるのを指し示しました。

「それでは、のちほどお参りませうか」

千禰は、花の降りしきる森の風情に心をときめかせて、若彦に尋ねましたが、彼はまるで聞きわけのない子供のやうに、いやいやをするだけでした。

「ぼくは遠慮する。腹ごしらへをして、もう暫く休ましたい」

そのへなへなした声色に、御婦人は思はず笑みをこぼされました。

「さうですね。では、お昼ごはんにいたしませう」

御婦人の言葉を合図に、傍に侍つてゐた女中さんが、花

毛氈の敷物をさつとひろげました。花毛氈が、本物の花をつけた枝の下に敷かれます。そこへ御婦人が淑やかに掛けて、「どうぞ」と促しますので、若彦も千禰も、めいめい履物を脱いで、花毛氈の上にあがりました。

桜の森も然ることながら、子供たちの遊ぶ丘をかへりみますと、なだらかな野原とはるかな山々が見渡せて、花毛氈の上からの眺めはとてもよいものです。

眺めに見入つてゐる間に、女中さんが漆塗りの重箱を目の前に積み上げてをりました。愈々御馳走のお目見えです。女中さんの白い手が、丁寧に重箱をひろげていきます。

一の重には、黒ごまをふりかけた小さなおにぎりが詰められてをりました。それから、お香々、甘く煮られた人参、椎茸、花れんこん、ふんはりとした上がつた卵焼き、赤い蝦甘鯛、そして、つやつやした金時豆が、色あざやかに添へてありました。二の重には、里芋や大根や、南瓜や牛蒡の合め煮が、所狭しと詰められてをりました。隅っこには、鰯や鰹の照り焼きや、鶏を捏ねた肉だんごも加はつてをりました。三の重には、からりと揚がつた天麩羅が詰められてをりました。車蝦、穴子、お芋、げそ、路の臺、大葉、舞茸といったごちそうが、金の衣を纏つて晴れやかにこの日の宴を祝つてをります。その中であつたただひとつ衣を着けてゐないものは、端っこに添へられた菜の花のお浸し

だけでした。四の重には、箱のなか一めに花を咲かせたやうな、五目のちらし寿司が詰められてをりました。五の重には、葉っぱで包んだ柏餅が、どつきりと詰められてをりました。

「うわあ、おいしさう」

お腹を空かせてゐた皆は、涎を垂らしさうにして喜びました。散り散りに遊んでゐた子供たちも、いつの間にか、周りに集まつて来てゐます。

「さあ、皆で、いただきませう」

手を合はせて、ご挨拶を済ませますと、誰もかれもが、御婦人が箸をつけるのも待たずに、ごちそうへ箸を伸ばしました。

黄いろくふくれた厚焼き玉子をつまみ上げ、口いっぱいに頬張りますと、こんがりした焼き目の香ばしさがひろがり、とろけるやうな甘みがなから溢れてきます。

黒ごまのかかったおにぎりは、小さくて一口で食べられさうです。附け合はせの香の物といっしょにいただきますと、お米の味に加へて、お香々の甘じよっぱさが頬に雅を伝へます。口を酸っぱさうにすぼめてゐる子は、どうやら梅干しを噛んだのでした。

赤いお豆さんはふつくらと煮立てであつて、舌の上のせたらとけてしまひさうです。いくつ食べても飽きません。

つるんとした口当りに、染みる甘みがまろやかです。

花をかたどつたれんこんの傍では、にんじんも縁をきり取られ丸くなつてゐました。そこに昼の光が差すと、にんじんはもうひとつのお日さまになつて、ふはりと柔らかい色をまといました。蝦も鯛も椎茸も、春の目出度さに躍りたいのか、ぴかぴかしてゐます。

女の子たちは、いろんな食べ物をつくり味はつて楽しめますが、男の子は競つて柏餅ばかりを食べてゐます。呆れたことにその中には、柏の葉っぱまで舐め尽くさうとする若彦の姿も混じつてゐました。

「これ、若彦さん、お行儀が悪いぢやない」

お豆さんを箸で摘みながら千禰がたしなめますと、若彦はうつむいて、はにかんだやうに頬のなかのお餅をもぐもぐと食みました。

それにしても、きれいに咲くお花を眺めながら皆で戴く御飯といふのは良いものです。お喋りも弾みます。何でも、御婦人は名前をおりんさん、女中さんはさよさんといふのださうでした。

「千禰さんに、若彦さん。お二人で、面白い旅をしてらっしゃるのね」

「いいえ。この御輿もいっしょですよ」

いま、木蔭に下ろした御輿のまはりには、遊びに来た子

原稿を書いてみませんか

中

国語の表記に、中国本土とシンガポールでは使はれる「簡体字」と、台湾や香港では使はれる「繁体字」があるのと同様、日本語の表記にも漢字と仮名についてそれぞれ二種類あります。いはゆる「旧字」と「新字」、「旧仮名遣」と「新仮名遣」です。

いはゆる「旧字」や「旧仮名遣」は、絶滅した国語表記ではありません。過去文献の引用、短歌や俳句をはじめとした芸術において、現代でも細々と使はれてゐます。

現代において、いはゆる「旧漢字」「旧仮名遣」を読んだり書いたりする方には、様々な立場の方がいらつしやいます。

- ・過去文献の引用に限り旧字旧かなで書きたい
- ・短歌や俳句に限り旧かなで書きたい

- ・ブログや芸術作品等、私的表記は旧字旧かなで書きたい
- ・今のところ書く事はしないが、旧字旧かなで読みたい

本誌は、そんな皆さんを応援する為に、「全真歴史的仮名遣（固有名詞や引用文は除く）の同人誌」として毎年発行する予定です。

原稿募集のお知らせ

いはゆる「旧漢字」「旧仮名遣」は、読むだけでも十分楽しめますが、実際に書いてみると更に楽しめますし、学ぶ近道でもあります。皆さんも試してみませんか。

『旧字』『旧かな』で原稿を書いても印刷を断られたり、『新字』『新かな』に直されたりする』のが残念ながら当り

前の現在、本誌は『旧字』や『旧かな』の原稿がそのまま掲載される」のが「当り前」の、謂はば「解放区」です！

募集内容

- ・ 毎号のテーマに基づく随筆や論考等（テーマ投稿）
- ・ 漢字や歴史的仮名遣について、国語国字問題について
- ・ コンピュータで旧漢字や歴史的仮名遣を使ふテクニク
- ・ 歴史的仮名遣による詩歌、小説、随筆、漫画等の作品
- ・ 半ページ〜四分の一ページ程度の短いコラム

国語問題に関する記事が多く集まる本誌ですが、テーマや国語問題に関係しない記事もむしろ歓迎いたしますので、お気軽にお書きください。

毎年秋発行、次号×切は、二〇一八年十月頃を予定してゐます。次号のテーマはウェブサイトで発表予定です。

なほ、執筆者や校正・組版等の作業を手伝ってくださつた方には、完成した冊子を一冊無料進呈致します。

投稿方法

本誌への投稿には、グループへの入会や会費のお支払ひ

は必要ありません（逆に、原稿料もお出しできません）。ただし、スムーズな聯絡れんらくの為に、原則として電子メールアドレスをお持ちの方に限定致します。「はなごよみ」のメールアドレスまで、ご遠慮なくメールでお問合せください。原稿も、メール本文に書いていただくか、メールにファイルを添付してお送りください。なほ、記事に関するご確認のため、編輯・校正・組版担当者にメールアドレスをお伝へ致しますので、あらかじめご諒承ください。

また、スムーズな編輯・校正の為、以下の情報もメールでお知らせください。

①ペンネーム

- ②掲載ご希望の方は「Twitter IDや電子メールアドレス（読者からの聯絡先として、なるべくご記入ください）」
- ③ジャンル（解説、評論、小説、詩歌、随筆、漫画等）
- ④内容（国語教育に関するエッセイ、学園もの小説等）
- ⑤未完成の場合は予定文字数（文字数か原稿用紙換算）
- ⑥漢字、仮名遣

（旧字旧かな・新字旧かな・広辞苑前文方式・新字新かな）

旧字旧かな 「櫻色のバッグを持つてゐる」

新字旧かな 「桜色のバッグを持つてゐる」

広辞苑前文方式 「桜色のバッグを持つて居る」

新字新かな

「桜色のバッグを持つている」

↓ 「桜色のバッグを持つてゐる」

に直して印刷

(⑥)希望により新字旧かなではなく旧字旧かなにも直せます)

⑦捨て仮名(ひらがなカタカナとも使ふ・カタカナのみ

使ふ「推奨」・使はない)

ひらがなカタカナとも 「桜色のバッグを持つてゐる」

カタカナのみ使ふ 「桜色のバッグを持つてゐる」

使はない 「桜色のバッグを持つてゐる」

一)新字旧かな兼新字新かなの事。ひらがな・カタカナとも捨て仮名使用推奨。言葉選びの難易度が高いので、歴史的仮名遣に十分慣れた人向けです。

一)小ざこ「ゃ」「ぢ」「ょ」「っ」の事。

ファイル形式

文章は原則としてテキストファイルでお送りくださるか、メール本文にそのまま書きください。ワードや一太郎等ワープロソフトのファイルでも構いませんが、文章校正機能を使用可能なワードまたはLibreOfficeを推奨します。

くの字点(くゝ・くゝ)は「/」「/」「/」で代用しても構いません。「旧字旧かな」をご希望の方は、コンピュータの一般的な文字コードに無い文字(二点之繞や「示」の形の示偏の漢字等)は新字で代用するか、注意書きを附加してください。編輯時に、フォントに字形のある範囲で、印刷用の正しい字形に直します。

写真やイラストや図ですが、残念ながらカラーは出ません(口絵を除く)。画像ファイルは、原則として文章とは別にお送りください(ワードで位置決めした内容をそのまま使ふのではなく、こちらで組版ソフトを使って組み直すので、元ファイルが必要です)。また、可能な範囲で、縮小されてゐない、なるべく大きなサイズをご用意ください。なほ、本誌のサイズはA5版です。詳しくはメールでお問合せください。

著作権について

皆様の原稿は、「同人誌(紙版および電子書籍版)」の原稿として「および」必要に応じ、同人誌頒布の際の内容見本として「使用しますが、作者に許可をいただかない限りは、それ以外の目的(他の本の原稿に転用する等)では使用しません。

また、前述の目的に限って、皆様の原稿を使はせていただきますが、原稿の著作権そのものを譲渡していただくといふ意味ではありません。後でご自分の原稿を（ウェブサイトに載せたり個人誌・同人誌・商業誌に載せる等）どう活用していただくかは、お任せします。

それでは、皆さんの作品を心よりお待ちしております。

